

〔飼鳥必用〕中朝鮮ヒンスイ

此鳥常の和のひんすいに似て府合別也、脊は薄赤く、和のひんすいの通り黒筋もあり、胸も赤くして黒府なし、雌に少シ黒府ある也。

〔武江産物志〕山鳥類

びんすいたひばりともいふ王子へん

〔喚子鳥〕上せつか

まがい生壹分あをみ入、  
粉壹分

大ききさいいによほど大きく、毛色せんうに黒し、囀りほそく、せんうにたり、よはき類にて飼がたし。

〔飼鳥必用〕下せつか

此鳥雛の内半なれとて有をひたきとも云也、九州に澤山有、野ひたき共いふ、至て弱鳥にて鈔六分餌にて飼也。

相思鳥

〔百千鳥〕上相思鳥 餌がい、五分ゑ、青味入

大きき鶯に似て總身もへ黄に鼠色なり、背赤く足黄尾羽黒く、兩羽之元に紅かば色の所あり、腹うすく黄色、目のうへに薄黄のまゆ有、尾のうへに二枚先の丸き尾あり、下の尾は皆燕の子の尾のごとく也、かろき鳥にて羽遣などして、籠の内見鳥によし、囀高音にて面白きもの也、巢もなす鳥なり、子かへりては卵を飼ふべし、十日程にて巢よりとり、すりゑのさしゑにて飼立る也、餌はだん／＼子のつよきよわきによりて、品々飼方有、極がたし、とかくはじめは先うなぎの粉を、はやの下餌に交て飼立るがよし、段々に諸鳥共によわくゑを引べし、其外巢の仕かけ、木竹の植込いろ／＼鳥の心によりて、見はからひあり、略之。

〔飼鳥必用〕中相思鳥

此鳥古より唐人持渡、日本の地にて澤山生立たる鳥なれ共、近年持渡薄く、親鳥無多く事故か、子